



東京部会(第11回)	
日時:	2008年4月10日(木)19:00-21:00
場所:	日本大学経済学部3号館(図書館)4階会議室
参加者:	加藤(日大)、中川(日大)、篠原(同志社大)、新井(都立西高)、梶ヶ谷(県立老名高)、高橋(桜修館中等教育学校)、鈴木(日本経済教育センター)、中沖(清水書院)、竹内(中央三井トラスト)、宮尾(国際大) [順不同]
【内容要旨】	
<p>●最初に篠原先生より以下の報告があった。</p> <p>1) 中高教員のための研修の日時決定、場所もほぼ確定;東京は「東証ホール」で8月11・12日、大阪は「エル大阪」で8月4日・5日に開催。</p> <p>2) 姫路で先生方の研修・研究会などの需要あり。</p> <p>3) 地方部会については全国銀行協会の紹介で各地の地方銀行のサポートを仰ぐ。</p> <p>4) 小学用の経済の参考資料を作っている経済広報センターがより広く経済教育を支援したいとの意向があり、ネットワークと共同で事業展開する可能性もあり。</p> <p>5) 年次大会は同志社大学で行い、多少の資金的サポートも得られる見込み。</p> <p>6) ワークショップは、各県の社会科の先生方の研修等と関連させて開催可能。</p> <p>7) Becker 他「経済問題に関する経済学者、教育者、ジャーナリストの見解比較」の日本語訳のコピー配布の上、経済問題の見方の偏りが指摘された。</p> <p>8) 「価格のメカニズムは需給を一致させること」というだけの理解が一般的なので、もう少し理解を深める方法はないか(グリーンспан自伝の一部を配布)。</p> <p>●次に鈴木氏(日本経済教育センター)から、牛井屋の教材を使う「出前授業」を行う予定で、4月中に広告を出すつもりとの報告があった。</p> <p>●加藤先生より、これまでの諸活動の評価と整理を行う必要性が指摘された。</p> <p>●8月の研修会について、新井先生が「企画案4」に沿った説明を行った。</p> <p>1) 篠原、中川、西村(周三)、大竹、地主(?)の諸先生が教える担当候補。</p> <p>2) 中身は「基本問題とミクロ」、「マクロ」、「国際経済」、「現代経済の諸問題」。</p> <p>3) 清水書院の教科書を、テキストとして参加者全員に配布。</p> <p>4) 東証がアクティビティの講義も含めて全面的に協力。</p> <p>5) 企画案にある質問に加えて、先生方から予め聞きたい問題を集める。</p> <p>6) 研修の最後(2日目15:00-16:40)にシンポジウムを行う予定。</p> <p>●さらに中川先生が、大学1年生対象の基礎ゼミで教える予定の「経済学の考え方」の内容について報告。教科書として「クルーグマン・ミクロ経済学」を使って経済学の基礎となる考え方と経済学の楽しさを教え、経済エッセイと経済実験を使って楽しさが伝わるよう工夫。その結果は、次の年次大会で報告も可能とのこと。これに対して新井先生などから、大学1年生にはやさしいエッセイや実験を選ぶことが必要という指摘があった。</p> <p>●それに関連して、宮尾より、クルーグマンの教科書では、効率性と公平性の両方を取り上げている点が重要で、それについての簡単な実験が示唆された。さらに配布資料に従って、経済学についての不十分な説明の例と、模範的な内容の例(池田阪大教授の「肥満」に関する日経経済教室の論文)が指摘された。</p> <p>●最後に梶ヶ谷先生から、東京部会での経済学的な議論が、中高の現場の先生方に届くには大きな距離があるという問題提起があった。それに関連して、宮尾より「読み書きそろばん」に「経済」が加わるために、新(および旧)指導要領における「生きる力の育成」の重要な一環として経済が位置づけられているかについての問題提起があり、それについては多少ともその方向に動いているのではないかという意見がいくつか出された。</p> <p>(文責:宮尾)</p>	
次回開催予定: 5月8日(木)19:00-21:15、日大経済学部3号館(図書館)4階会議室	